

8月14日午前11時(現地時

間)

マウイ島、ラハイナ全焼の悲劇は、この原稿を書いている現在もまだ生々しく展開中だ。ラハイナでは、火災の影響を受けた行方不明者の捜索と復旧作業が続けられている。現在、この火事で亡くなった人は97人だが、行方不明

ナヒゲーター

者は数百人。

観光客はマウイ島を離れるよう警告され、キヘイとクラ(ともにマウイ島も火災による甚大な損害を被っている。観光インフラは全滅し、マウイ島はしばらくの間、元通りになることはないだろう。ラハイナの町は約85%が破壊され、住宅やビジネスの再建に

日本への期待 世界各地から

其 56

は何年もかかるだろう。

筆者は2016年、ファースト・ハワイアン銀行ラハイナ支店とラナイ島支店の銀行監査の途上、幸運にもラハイナのパイオニア・イン(ハワイ州最古のホテル、木造建築)に宿泊することができた。インは派手でなく、かなり古い38室ほどの部屋しかなかった。その宿は歴史的な菩提樹(ラハイナの町のシンボル)の隣にあり、港の向かいにあった。ラハイナで起きたことは本当に痛ましい。銀行の支店でさえ燃えてしまい、何が残っているのかさえ不明だ。ラハイナとマウイ島の壊滅的状况は、日本でいえば福島

マウイで起こっていること

緊急レポート・現地からの報告

原発の事故のようなものだ。何が起きたのか、そしてマウイ島と在住者にどのような影響があるのか、その全容を把握するにはしばらく時間がかかると思われる。この状況について記事を書くよう日本から依頼があるが、このような状況を考えて、とてもその気になれない。とはいえ日本の方々に状況を共有してもらいたく、簡潔に書くことにする。

8月16日午前11時(同) 先週火曜、マウイ島はハリケーン「ドローラ」による強風に見舞われた。マウイ島とくくラハイナの町は強風の影響を受け、また乾燥した環境から発生した草火事に見舞われた。強風のために電気、電話線、携帯電話の電波塔が破壊され、ラハイナの町全体を巻き込んだ火災を消火するためヘリコプターや飛行機などの航空支援ができなかった。その結果、ハワイ史上最大の自然災害となり、米国での百年で最悪の火災となった。

最新の数字では、99人の住民の死亡が確認され、千人以上が行方不明になっている。火災発生から7日が経過し、悲劇の全貌が明らかになりつつある。FEMA(連邦緊急事態管理庁)をはじめとする政府機関がラハイナ地区により早く救助にたどり着いたのは数日前のことだ。行方不明者や死者を発見するために救助犬も派遣されているが、火災で焼け野原になった地域への立ち入りは制限されている。救助隊員は、愛する人を含めすべてが「塵」になっていると忠告している。ラハイナの有名な目抜き通りとその建物の完全な破壊は言葉では言い表せない。私たちは皆「オハナ(家族)であり、マウイ島民を支援するために協力しています。日本の皆さまからも積極的な支援を期待します。」

主な支援窓口は次の通り。

- * Hawaii Chamber of Commerce Foundation Business Relief Fund
- * UH Foundation
- * Salvation Army Hawaii
- * Maui Food Bank
- * Hawaii Community Foundation Maui Strong
- * Kokua for Maui/Hawaii Restaurant Association
- * Aloha United Way
- * Malama Maui (Call&Donate 855-511-4483)-American Red Cross

【フライアン・モリキ(ハワイ州オアフ島在住)、リーム中産連】(月曜日に掲載)